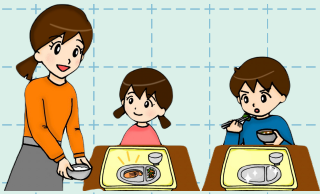


～「全部食べないのにおかわり」って“ずるい”こと?～



Vol.37で「おかわりのルール」について取り上げました。「全部食べないとおかわり禁止」は、苦手な食べ物が多い子にとっては厳しいルールになります。一方で、たとえば「苦手なものを少しでも食べたら、好きなものをおかわりをOK」にしたときに、全部食べた子どもからすると「ずるい」と感じることもあるかもしれません。今日はその点について深めていきましょう。

「頑張れば食べられる」という危険な前提



「頑張ったら食べられる」という前提で無理に勧めると、事故につながることもあるので注意が必要です。

速く走れない子に「頑張ったら速く走れるよ」、「速く走れたらご褒美あげるよ」と伝えても、すぐには速く走れるようにはなりません。同様に、食べられない子も、頑張れば食べられるとは限りません。食べられないのには理由があり、無理に食べさせることによって、さらに嫌いが助長されたり、嘔まずに丸呑みして誤嚥や窒息につながることもあります。

「ずるい」の声を解消するには?

「全部食べていないのに、好きなものをおかわりが出来るのはずるい」という周りの子からの声があった場合、その声を解消するのも先生の役割と考えてみた時に、どのように解消すればいいでしょうか? 以下、3点を伝えることが大切です。

2

支援が必要なこと

例：Aさんは、少しの量から慣れることが必要なんだよ。Bさんは、上手く嘔めるように練習が必要なんだよ。

1

理由があること

例：Aさんは、苦味を強く感じやすいんだよ。Bさんは、まだ上手に嘔むことができないんだよ。

3

チャレンジしていること

例：Aさんも、ペロっと舐めてみることからチャレンジしているんだよ。Bさんも、少しかじってみるからチャレンジしているんだよ。

好きなものが食べられるから、苦手なものにチャレンジできるというのは、ありますよね!



詳しい解説記事はこちら!

